

2017 年 8 月 17 日

Nistica, Inc の株式譲渡について

株式会社産業革新機構（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英、以下「INCJ」）は、同社が保有する Nistica, Inc（本社：アメリカ ニュージャージー州、CEO：Ashish Vengsarkar、以下「ニスティカ」）の全株式について、America Fujikura Ltd（本社：アメリカ サウスカロライナ州、代表取締役：Jody E. Gallagher、以下「America Fujikura」）へ譲渡しましたのでお知らせします。

ニスティカは、通信キャリアの次世代ネットワークの構築に必要な ROADM^{*1}の主要部品である波長選択スイッチの開発、販売を行っており、2005 年に創業されました。ニスティカは既存の波長選択スイッチよりも性能・コスト面で優れた製品を生み出しています。INCJ は 2012 年 7 月、ニスティカへの投資を発表し、社外取締役の派遣などの経営サポートを通して、支援をしてきました。

この度、ニスティカの更なる事業発展のためには America Fujikura に経営を委ねることが最善と判断し、INCJ は今回保有するニスティカの全株式を America Fujikura に譲渡いたしました。

*1：ROADM とは、光通信ネットワークのノードに設置される光部品で、光信号の分岐・挿入・通過などの通信経路を設定することができる。大容量の光ネットワークを低コストで効率よく運用できる技術。

参考）INCJ は、2012 年 7 月 6 日に「ニスティカ社への出資を決定」を公表しています。

URL：http://www.incj.co.jp/investment/deal_031.html

Nistica, Inc. について

設立 2005 年
事業内容 光通信機器部品の製造、販売
本社所在地 アメリカ ニュージャージー州
代表者 Ashish Vengsarkar
URL <http://www.nistica.com>

America Fujikura Ltd. について

設立 1984 年
事業内容 光通信製品および関連機器の製造、販売
本社所在地 アメリカ サウスカロライナ州
代表者 Jody E. Gallagher
URL <https://www.aflglobal.com/>

株式会社産業革新機構（INCJ）について

INCJ は、2009 年 7 月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約 2 兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

<本発表資料のお問い合わせ先>

株式会社 産業革新機構 企画調整 Gr. 広報 入江、坂井
東京都千代田区丸の内 1-4-1 丸の内永楽ビルディング 2 1 階
電 話 : 03-5218-7202 URL : <http://www.incj.co.jp/>

[別紙]

1. 対象事業会社

Nistica, Inc.

- ・設 立 : 2005 年 1 月
- ・代表者 : Ashish Vengsarkar
- ・所在地 : 米国ニュージャージー州
- ・事業内容 : 光通信機器部品の開発・製造・販売

2. 支援決定概要

- ・支援決定金額: 約 34.23 億円(上限 27 億円+7 百万米ドル)
- ・実投資額: 非公表
- ・共同投資家: 株式会社フジクラ、NTT エレクトロニクス
- ・株式保有割合: 42%
- ・支援決定公表日: 2012 年 7 月 / 2014 年 4 月
<https://www.incj.co.jp/news/assets/1417677112.01.pdf>
<https://www.incj.co.jp/news/assets/1398835327.02.pdf>
- ・投資ストラクチャー図:
<https://www.incj.co.jp/performance/upload/docs/1426127405.03.pdf>

3. 経緯

(1) 出資の経緯

Nistica は、2005 年に AT&T ベル研究所出身者を中心に創業されたベンチャー企業で、波長選択スイッチ(WSS)の開発・製造・販売を行っています。波長選択スイッチは、ROADM*機能を実現するために不可欠な部品として、今後の需要拡大が期待されています。

INCJ は、光通信機器の基幹部品を開発する米国のベンチャー企業と日本の大手企業による協業を通して、増大する通信トラフィックへの対応と日本の通信機器産業の競争力維持・強化の両立が図れると判断し、2012 年 7 月と 2014 年 4 月の 2 回に分けて、出資を行い、Nistica の株式の 42.4% を保有することになりました。

(2) 事業の進捗

本投資を通じて、Nistica は、高品質の製品開発に至りましたが、開発に時間と資金を想定以上に要しました。また、競合他社からの特許侵害に関する提訴を受け、特許侵害はないという判決をうけたものの予想外の訴訟費用を負担することとなり、投資時に想定した事業計画の進捗から遅れることとなりました。

しかしながら、Nistica と日系企業との共同開発を実現したり、WSS 市場の成長率が当初見込みを

下回る厳しい環境の中でも、売り上げ・市場シェアを伸ばすなど、一定の投資意義を充足することができました。

(3)Exit の経緯・内容

そのような状況下、INCJ は、Nistica の今後の事業継続について、共同投資家であるフジクラと慎重に検討した結果、同社の事業発展のためには、America Fujikura に経営を委ねることが最善であると判断し、2017 年 8 月、保有する Nistica の全株式を America Fujikura に譲渡することとなりました。

* ROADM (Reconfigurable Optical Add and Drop Multiplexer)

高密度波長分割多重方式ネットワークにおいて、波長の挿入、分岐、通過を遠隔制御により行うことでネットワークの再構成を可能にするネットワーク運用技術。

4. 主務大臣(経済産業大臣)の意見

ベンチャー企業等への積極的な支援は、今後も我が国の産業競争力の強化において重要である。本案件の課題を踏まえ、引き続きベンチャー企業等への支援を行うとともに、支援案件全体としての収益性の確保に努められたい。